

## 第2回懇話会(H30.11.19)における主な意見

## ■議題1「次期教育プラン施策体系等について（ア）ビジョンについて」

1	・本市はSDGs未来都市にも選定されていることを踏まえ、「持続可能な社会の構築」という文言を入れてはどうか。
---	--

## ■議題1「次期教育プラン施策体系等について（イ）ミッション及びアクションについて」

全体に関する意見	
2	・ビジョンの3つのキーワードに対して、5つのミッションで達成できるのか疑問。一般的な設定になっているので、保護者が北九州市に住みたい、子どもが学びたいと思えるような、より魅力的なビジョン・ミッションの見せ方、表現を検討してはどうか。
3	・独自性等を抽出して見せるべき。また、各ミッションを見たとき、何に向かっているのか分かりにくい。ミッション毎にタイトル（小見出し）みたいなものがあればよいのでは。
mission1（学力・体・心の育成、特別支援教育）に関する意見	
4	・そもそも教育は子どもの可能性を伸ばしていくもので、「本市の未来を切り拓くために必要とされる力を着実に育成」はあからさまではないか。また、「シビックプライド」というより、今はグローバル的に視野を広げたものにしてはどうか。
5	・最後の項目にある「自らが新たな時代を切り拓く」の「自ら」が重要なキーワード。ひまわり学習塾のアンケートで、「予習や自分で計画を立てる」という項目は低かったので、学習習慣や意欲の観点からも重要。
6	・環境教育など、特色のあるものはどこに入るのか。表にもっと出してもいいのでは。アクションの中に、北九州市の特徴である環境教育をぜひ入れてほしい。
7	・インクルーシブ教育について、教員の安心感が重要。通常学級でのグレーゾーンの子への対応も課題。そういう子が自信を持てるように、「特別支援教育」と併せて「確かな学力の育成」の中でも位置づけることが重要では。
mission2（教員の資質向上、業務改善）に関する意見	
8	・「喫緊の課題」という文言があるものとないものがある。全て同程度重要であり、整合性の観点からも表現として適当ではないのでは。丁寧な分析を。
9	・民間企業でも、働き方改革は喫緊の課題となっている。 ・ビッグワードが並んでいるが、教員が見たときに変わっていくことが期待できるようなキーワードがほしい。「〇%削減」のような具体感を出しては。
10	・「優秀な教員」とは、なにか評価システムがあるのか。 ・研修は経験の浅い教員だけではなく、希望者全員が受けられることが重要。
11	・教員の確保と育成のためにも、教員にとって魅力あるプランにしていきたい。
12	・校務支援システムの導入など大きく現場も変わり、5年前と比べると非常にワクワクできる状況。 ・成果の例として「校務支援システムの導入」や「部活動の休養日」等、可能な限り具体例を入れては。
13	・メディアでは「教員はブラック」と言われているが、教員の魅力、やりがいを外に発信する必要があるのでは。
14	・実態として教員の時間外はある。それは校務支援システムでカバーできるものではなく、改善していく必要がある。喫緊の課題である業務改善が進めば、子どもと向き合う時間も確保でき、魅力ある仕事に戻っていくはず。
15	・教員の研修について、計画的なOJTという意識はあるが、どのようにやっていくべきか示してほしい。それが教員の安心感にもつながる。
16	・教員採用の倍率も2倍を切り、先生になりたいという子が減っている。なにかあればすぐ保護者が学校に訴えるなど、原因はPTAにもあると感じている。家庭教育や研修などPTAとしても検討していかなければならない。

mission3（長期欠席、いじめ、安全の確保）に関する意見	
17	・学校をとりまく課題が早期化・複雑化する中で、チーム学校として、いち早くスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの整備・協働により成果をあげている。北九州方式としてのアピールを行い、拡充だけでなく質の向上も必要では。
18	・防災・安全教育は、まさに学校の役割である。ぜひ、教員や子どもが安心して集える場所にしていきたい。
19	・防災に関しては、PTAとしても学校といっしょに取り組んでいる。
mission4（家庭・地域・学校の連携、社会的・経済的な課題）に関する意見	
20	・虐待については、教育委員会や子ども家庭局だけでなく他団体との連携や具体的な取組みが重要。
21	・現場として小学校応援団とはよい付き合い方ができている。小学校自体も情報の共有を行う必要があるが、各学校や地域により実情が違うので一概には言えないが、より多くの情報をいただければさらに充実できる。
22	・NPOや団体として学校に協力したいが壁が厚いように感じるので、入りやすいシステムづくりをお願いしたい。
23	・スマホの取組みやアンケートなど、PTAと学校と教育委員会、共通認識を持っていっしょに取り組んでいく必要がある。
mission5（教育環境・学校施設の整備）に関する意見	
24	・ICT等の環境整備に関しては、障害のある児童生徒や長期欠席者への活用により、5年後のワクワクにつながるのでは。
25	・ICTに関して一人一台は難しいが、携帯を活用してなにかできないかと考えている。これもPTAとして検討していく必要がある。